



ワールドカップが早々と終わってしまいました。選手もサポーターも精一杯努力したのでしょうか、試合途中なのにへたり込んで倒れてしまったのには驚きました。ヤンキースの田中が打たれても「負けるものか!」とガッツを入れているのと対照的でした。

人生にはどうしようもない敗北や困難が立ち向かいます。私は、困難があっても批判があっても平気そうな顔をするので、「ブルドッグみたいな人だ!」と呆れられたのですが、英語では「勇気と決断力がある人、頑固者」という意味合いで使われますから、聞き流しておりました。がっかりした表情や様子を見せたら、妻子や部下が心配するでしょう。弱音は吐かない、どんなことがあっても歌いつつ歩むと、結婚の時に決めました。

結婚式には好きな賛美を選ぶことが出来たので、「歌いつつ歩まん」を歌いました。私たちの状況を知っている教会の皆さんは、苦労を偲んで涙を流してくださいました。私は病気の妻と経済的なやり繰りを思いつつ緊張しながらも、「負けてなるものか。」と大きな声賛美しました。化粧をしたことのない妻は、涙を拭き、口紅を拭いてしまうので顔が紅で赤くなり、それが心配だったことを思い出します。

7月はゼロから始めた教会が30周年を迎えます。会堂を持つまで20年掛かりましたが、未熟な牧師としては失敗ばかりでした。苦労を黙って耐え、人を祝福し、明るく過ごすという心構えでしか達成できないことです。しかし、私が悩んだら、他の人々も自分の困難に悩んでしまい、明日への力と希望を失ってしまうと考え、一人で祈り、神に賛美し、生きてきました。最近やると、子供や妻に相談することができるようになり、寛いだ生活が営めるようになってきました。そのようにして人生は、老いに入るのでしょうか。

聖書に「喜ぶ者と一緒に喜び、泣く者と一緒に泣きなさい。」という言葉がありますが、今の事業は子供たちに任せ、助けを求める人々の為に残りの人生を費やしたいという願いがあります。何が出来るかわかりませんが、困難に立ち向かうのが私の性格です。妻は私がブルドッグと言われたと言うと、「それでは私は以前飼っていたゴールデン・リトリバーみたいな弱虫ね。」と言います。優しい妻が傍に居るとは慰めです。

事務長 柏崎久雄

* 7月11日(金) 院長院外出張の為、午後は15時からです。

* 栄養指導や個人的ご相談、セカンド・オピニオンなど、内容をお伝えの上、予約をお願いします。予約がなく、詳細なご説明を求められても、対応ができません。発達障害の治療には、説明が必要のため、ご予約がないと対応ができません。キャンセルの場合はお早めにご連絡ください。栄養指導枠のキャンセル待ちの方がおります。

* 4月から来年3月末までの期限で、妊娠を希望する成人女性の風疹抗体検査と風疹(麻疹風疹)ワクチン接種が自治体の補助で自己負担3千円(抗体検査は自己負担無し)にて実施できます。対象者についてはお問い合わせ下さい。(申し込み制)

* ㈱ヨーゼフでは、「ヌクレオBコンプレックス」と「イノシトールB3」を7月5日まで、「ベーシックパック」7月一杯、キャンペーン販売を行います。詳細は店頭にてご確認ください。

* 治療の会の親の会と回復の会は7月15日(火) 11時から16時です。ご予約ください。

* 長らく勤務しました管理栄養士主任の佐々木雅子は、ご主人の会社設立を手伝うために6月末で退職しました。

感染症又は感染症疑いの方は、入口、診察室、会計の流れが異なります。

風邪、水ぼうそう、おたふくかぜ、インフルエンザ、はしか、風疹等の感染症の方、又はその疑いの方は、来院時は正面入口横の中央通路わまきのインターホンで受付までご連絡下さい。問診票を廊下でお渡ししますので、2階第2診察室待合室にてご記入下さい。診察後のお会計は、処方内容が確定してから、1階に降りて下さい。トイレ後のハンドソープによる手洗いの実施にご協力下さい。

聖書を読む会

7月15日(火)午後2時~2時20分
当院待合室にて行います。
どなたでも参加できます。

<発達障害の予防のために>

マリヤ・クリニックでは、『発達障害の治療の試み』という書籍を出版し、発達障害の治療の理論と治療方法、そして症例報告を紹介しました。私たちは、発達障害の原因を大きく妊娠及び出産時にあると研究し、治療を行ってきました。実際に障害をお持ちのご家族にとっては、厳しい指摘かもしれませんが、発達障害児が生まれることについて、以下のことをご注意ください。当然、以下のこと以外で発達障害になった人々も多くおられると思います。

「胎盤の重要性」

- ・ 受精した後、出産して胎児の器官が機能するまで、栄養補給から排泄、身体の形成に必要なタンパク質の合成やホルモンの分泌、有害物からの防御や解毒、呼吸などを胎盤が主に代行します。
- ・ 胎盤の腎臓機能によって、胎児の血液と母親の血液が胎盤で直接やり取りすることなく、老廃物の排泄ができるのです。胎盤の腸管機能によって、免疫機能を果たし、病原菌などの異物が入らないようにしていますし、代謝や解毒という肝臓の機能も果たします。さらに、胎盤は大量のホルモンを必要とする胎児のために、脳下垂体や卵巣の内分泌作用も代行します。

「妊娠中の母親の血糖値」

グルコース(ブドウ糖、血糖)は人間の主要なエネルギー源ですが、胎児には母体に比べて20mg/dlほど低いものが送られます。それで、母体が糖尿病などの高血糖、あるいは各種の理由による低血糖の場合には、そのまま胎児の血糖が影響されてしまうために、好ましくありません。母体の血糖値は、きちんと管理されることが必要なので、血糖を不安定にする流動性の糖分(飲み物)やスイーツの常食は胎児にとっては危険なものと思われれます。

「妊娠中の母親の血清タンパク質」

母体の血清タンパク質は、胎盤でアミノ酸に分解されてから胎児に送りこまれ、胎児の身体を形成していきます。このことも母体のアルブミン値によって確認し、十分なタンパク質が胎児に供給されるように注意をすることが大事でしょう。タンパク質不足の女性が多いのですが、胎児を形成するタンパク質を十分に供給できなくなります。

鉄分の不足、カルシウムの不足、細胞分裂に寄与する亜鉛の不足なども胎児の成長に大きく支障をきたします。

「胎盤を通してしまう薬物・毒物・感染性物質」

分子量の小さいものほど容易に通過。特に600以下は通過します。通常用いられる薬剤は分子量250~400程度であり、容易に胎盤を通過し、胎児に移行すると考えられます。

更に、成人になるにつれて確立する脳関門が幼児や胎児の場合は未発達のために、有害なものがあるまま脳内に移行してしまうことになり、一度脳内に入ると排出することは難しくなるので、妊婦だけでなく、妊娠の可能性のある女性の有害ミネラルや薬物常用は非常に注意することが大事です。

「胎児のアレルギー反応」

妊娠している母親が食べた食物のうち、腸粘膜を通して吸収された食物抗原の一部は、胎盤を通して胎児に移行しています。その食物抗原に対して、胎児がアレルギー体質を持っていた場合、胎児はアレルギー抗体を作ります。これは胎内感作と呼ばれます。一般的にアレルギー反応は外界の物質に繰り返しさらされることによって起こります。胎児にとって外界の物質とは、母親の摂取した食物に由来するものが圧倒的に多く、生まれた赤ちゃんがアレルギー反応を呈した場合、アレルゲンはまず食物と考えてよいのです。

「腸管免疫の発現」

腸管免疫は免疫系全体の6~7割を担っていますが、腸内細菌に感染することが免疫系の形成に関わることがわかってきております。

胎内は無菌状態なので、出産時に産道を通るときに口や鼻を通して細菌(善玉菌・悪玉菌)を腸管へ侵入させて、初めて感染して腸内環境を形成します。善玉菌は嫌気性菌のため、帝王切開で生まれ

た子供が善玉菌の移植を受けるのは難しいこととなります。新生児の胃酸分泌は、生後 24 時間で確立されるとのことですから、胃酸に害されないで善玉菌を補給するためにも、なるべく分娩による正常出産を図るべきです。

「母乳が免疫力をつける」

体内では免疫グロブリンの I g G が胎盤を通して供給され、母乳中の分泌型 I g A は、酸やタンパク質分解酵素の影響を受けにくく、細菌やウイルスによる腸管内侵襲から新生児の腸管を防御します。I g M や I g G も含まれており、母乳中の免疫グロブリンの量は、母乳に含まれる総タンパクの 6 ~ 10 % を占めているようで、特に出産後 5 日間は多く、か弱い新生児の免疫力を高めています。

母乳には善玉菌を増やすオリゴ糖がたっぷり入っており、ビフィズス菌は母親の乳頭に存在して、授乳のときに移っていくようです。人工乳の場合には、オリゴ糖やプロバイオティクス（生きた状態で腸に到達する微生物や乳酸菌）を補給すると、未熟児の壊死性腸炎や脳室内出血を抑え、免疫系の弱い子どもの気管感染・中耳炎・胃腸炎などにも良い結果を与えていると報告されています。

母乳は飲む事により赤ちゃんの呼吸器や消化器の粘膜の表面を覆って大腸菌やチフス菌、ウイルス等が侵入して病気になるのを防ぎます。新生児の場合、この母乳の防御壁が出来ない内に・・・つまり、初乳を与えないでミルクなどの人工栄養を与えると、腸粘膜の働きが未熟な新生児は人間のタンパク質とは異種の牛のタンパク質をどんどん吸収してしまいます。そして、その異種タンパクが抗原となって体質によって牛乳アレルギーを起こす可能性があるのです。更に、成分にも秘密があります。母乳の中には分泌型 I g A（抗原が腸の中に侵入するのを防いでくれる免疫グロブリンの一種）や鉄の吸収を助け腐敗菌を静菌するラクトフェリンやリゾチームなど、消化吸収されるのではなく直接そのままの形で色々な目的で働く多くの物質が含まれ、それらの働き・作用によってアレルギーの発症はわずかな確率に抑えられているのです。

赤ちゃんの便の状態は母親の栄養状態を反映し、母乳は血液から作られるため、母親の血液状態は赤ちゃんの栄養状態にも直結します。体調の悪いお母さんの母乳を飲みたがらないこともあるので、母親の健康管理が大事です。母親が脂肪分の多い食事を摂ると母乳がドロツとして乳腺が詰まることもあり、糖分の高い食事を摂ると乳房の循環が悪くなり、赤ちゃんが母乳を飲みづらくなるようです。糖質の少ない伝統的日本人食を母親が摂る習慣を付けるとミネラルやビタミンも豊富で、母乳の味も美味しくなるようです。

「離乳食の注意」

新生児のタンパク質分解酵素は、成人の 6 割くらいしかなく、生後 1 年で成人に近づきます。

ですから 1 歳未満児は、消化酵素が十分でなく、未熟な酵素では摂取したタンパク質が上手く消化しきれません。大きい分子が消化できずにそのまま吸収されるので異質な抗原物質として認識され、その結果アレルギーが引き起こされる可能性があり、一旦アレルギーが起きると皮膚にだけではなく腸粘膜にも炎症が起こります。

「子ども達の食事」

甘いお菓子やジュース、ジャンクフードなどの過剰摂取により過度のインスリンを出すようになると、すい臓が疲れ血糖調節が悪くなり低血糖をおこします。

低血糖時に血糖を上昇させるためにアドレナリンが急激にでると、交感神経緊張症状が出るのと同時に脳の前頭葉が麻痺してしまい、理性的な判断が行なえなくなります。低血糖による脳のエネルギー不足で起こる機能障害（無気力、憂うつ感、攻撃性の出現など）は、成長期の子供の脳に、情動ストレスとからみあって大きな悪影響を与えるため、甘い食物の摂取には慎重な対応を必要とします。

「有害ミネラルへの注意」

血液脳関門は、体内に吸収された物質や外から侵入した有害物質、そして、体内で異常に増えたホルモンなどが血管を通り、脳の中に入ろうとする際に、中枢神経を守るバリアの役目を果たします。また、脂溶性物質は通りやすく、必要なものだけを脳へ通すように選択しています。この血液脳関門は、0.5 ~ 1 歳の間に閉じますが、それまでは開いています。この血液脳関門未形成の間に、脳に

とって不必要あるいは有害な栄養やミネラル、重金属、ホルモンが脳に送られた場合に、脳は無差別にそれらを取り込み、悪い影響を受けることとなります。

「乳幼児期の予防接種」

水銀の毒性としては水俣病が有名ですが、自閉症とされる重度の発達障害の患者には同じような症状が見られることがあります。チメロサルはエチル水銀で、水俣病のメチル水銀ではなく、毒性が低いと言われ、体外へ排出されやすいとされますが、この排出機能が弱い人もいないのでしょうか。アメリカでは、乳幼児期に受けたワクチンがもとで自閉症が起こったとして、ワクチン製造会社を訴える訴訟が多く起こっております。厚生省は6か月以上3歳未満の幼児は半分の0.25mlを2回と定めていますが、脳関門の関係から1歳以上のほうが良いかもしれません。

「発達障害者の人数」

発達障害の可能性のある小中学生が6.5%、推計で約60万人に上り、「書く」「聞く」「計算する」など特定の分野の学習に困難を示す学習障害(LD)の可能性のあるのは4.5%。注意力の欠如や衝動性などを特徴とする注意欠陥多動性障害(ADHD)とみられるのは3.1%で、知的発達に遅れない高機能自閉症と判断されたのは1.1%でした。(2012.文科省)

「分子整合栄養医学の進展」

精神症状をもたらす機能性低血糖症の治療が発達障害の治療などにも有効なことがわかってきました。わたしどもの治療は、脳に悪影響をもたらす要因を取り除くことで、多くの成果を上げることができると考えています。

詳細は、拙著『発達障害の治療の試み』(柗ヨーゼフ)をご覧ください。

「ホッファーの精神疾患の原因研究」

「脳の重要な構成成分を至適濃度に整える分子整合医学療法は、多くの精神疾患患者にとって望ましい治療法となるであろう。」

精神疾患患者に対して、甲状腺機能、糖負荷試験(OGTT)、インスリン濃度、ビタミンの血中濃度、毛髪中微量元素分析、脳性アレルギー、環境化学物質や有毒物質、などの検査が必要である。食習慣もチェックする。臨床検査や行動検査も必要である。(A・ホッファー、M・ウォーカー『栄養革命』)

・ A・ホッファー博士の努力

ホッファー博士は、精神疾患の原因を探り、どうにかして、治そうとしていたのです。私たちは、ホッファー博士とは個人的にもお会いして、その障害治療への情熱に感動しました。博士の指摘は、私たちの治療に大きな影響を与えました。

彼は対症療法的な向精神薬の処方を、身体や精神神経に害をもたらすものとして反対していました。

<向精神薬に関する注意>

2009年ころより、海外の巨大製薬会社は、向精神薬の開発から撤退することを次々に表明しています。(アストラゼネカ、グラクソスミスクライン等)。それは、十分な効果が確認できないのにも関わらず、耐え難い副作用は確認されているからです。

《 診 療 時 間 》

月曜～金曜 (午前8時30分～12時10分、午後2時30分～5時30分)

土曜 (午前8時30分～12時10分、午後2時～4時)

休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始

- ・各種健康保険取扱機関
- ・生活保護指定機関
- ・介護保険取扱機関
- ・特定疾患取扱機関
- ・結核予防法指定機関
- ・自立支援医療機関
- ・身体障害者認定医
- ・各種健康診断
- ・小中台小学校校医
- ・栄養療法(分子整合医学)



(携帯サイトへ)